

## ～今月の読み物～

## NHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」 撮影協力のお話

三幸林産(株)

馬田 勝之

皆さん、ご覧になられた方は、まだ覚えていらっしゃるでしょうか？昨年4月から放送がありました「とと姉ちゃん」。浜松から深川木場の木材問屋の実家へ移り住み、様々なエピソードを経ながら約10週間、深川編としてドラマが展開されました。材木屋がストーリーに加わるので興味を持たれた方も多かったのではないのでしょうか。ヒロイン常子役には、2016年ブレイク女優、高畑充希さん。木材問屋の女将には、迫力があり品格のある、大地真央さん。木材問屋の番頭には、厳しくもユーモアがあり心優しい、片岡鶴太郎さん。主題歌は復帰後初作品になる、宇多田ヒカルさん。豪華メンバーで構成された日本を代表する番組です。

きっかけは、昔の木材問屋の話を知りたいとのことでした。ただし、戦前の話です。私には無理なので、戦後の深川を語れる母親と駿保商店様の会長と奥様にも同席していただき、弊社富岡の木造を見てもらいながら監督、助監督、スタッフの方と昔の木材問屋の一日の様子などをお話ししてもらいました。その後も撮影スタッフからの様々な質問が頻繁にありました。筏を引っ張る船はどんなのがありますか？セットを作るにあたって、必ず必要なものはなんですか？お帳場には何がありますか？女将は先見性があり仕事に誇りをもっている、息子は普段頼りないが仕事はできる。ヒロインの相手役が見直される設定にしたい、視聴者にわかりやすくおかしくないようチェックをしてもらいたい。木材関係の話は様々なシーンに組み込まれていました。これらを業界として恥ずかしくないように、自分なりに考えてお答えさせてもらいました。数ヶ月後「スタジオに来て指導してもらえませんか？」と依頼を受けました。材木屋の厳しいチェックは想像出来たのですが、やりがいと責任のある仕事と感じお引き受けすることに致しました。木の部分を詳しく話すセリフの提案もしていたのですが、それは必要とされませんでした。そんな中、大黒柱を木曽の桧で建てたいという話、ありましたよね。間違えて削ってしまった設定の青森ヒバ(4m×200×200)を弊社から持ち込みました。その時、スタッフや俳優さんたちは木に驚嘆しておりました。木の匂いをかいたり、木にふれて感触を確かめたり、カンナ屑を持ち帰る人もいました。大地真央さんも「寝言は寝てからお言いい!!」という決め台詞の際、木をうまく叩かれていました。そして、撮影後には鶴太郎さんがその大黒柱の青森ヒバに海老と鯛の絵を描いて下さいました。その後、何度も大きな角材をスタッフと出したり奥に引っ込めたりしながら、高畑充希さん他出演者の方にサインをしていただきました。弊社富岡Kiclus(キクラス)に飾ってあります。

大俳優さんに何か指導することは少なかったのですが、青柳商店(ドラマ内の屋号)には番頭さんをはじめ、多くの従業員(小僧)たちがおりました。もちろん、俳優さんですので材木を担ぐことに慣れていません。事前のオーディションに呼ばれ、審査員をすることになりました。元気のいい小僧役からベテランまでの募集に、40名ほど呼ばれていました。合格者は10名程度です。皆、朝ドラに出たい思いをアピールしていました。当日は角材が用意され、グループごとに演技しながら木材を積んだり担いだりしてもらいました。威勢のいいセリフはうまいのですが、行動が伴いません。木材を並べる作業がきれいに終わらず、苦戦していました。そんな中、要領よく仲間を使い共同で仕事をこなす子が目に入りました。選考の際「あの子良かったですね。」と言ったら、「馬田さん枠で決まりです。」と採用が決まりました。ドラマとしてバランスよく採用者を決めていき、いい画になることを想定しているのが良く分かりました。青柳商店の俳優の中には今でもお付き合いをして、たまに飲みに行ったりしています。うちの娘はヒロインの恋人役、坂口健太郎くんに会いたくて、スタッフにお願いしたらスタジオに同行させてもらえることになりました。その後、「娘さん出演しませんか？」とお誘いを受け、女学生役で出演することになりました。「馬田さんも考えてますので、お願いします。」と言われていたので、私も衣裳を着て撮影させてもらいました。ただし、撮影だけでした。

ドラマは木材統制になり、思うような商売は出来にくくなる中、青柳商店の女将は商売を続ける努力をしています。リハーサルの際、「こんなダメな木しか用意できなくて」というセリフに大地真央さんが疑問を感じ、別の言い方を求められました。「こんな“情けない”木しか用意できなくて」と提案したところOKをもらいました。このように些細なことかも知れませんが、ドラマを真面目でわかりやすく、それでいて面白くする工夫が随所に考えられています。セットの木材張付け、下小屋の設定、小僧の動き、木材の目利きや仕分け作業の仕方、手に持っている帳面は何かなど。細かいチェックが必要になります。材木屋の朝は威勢よく元気に挨拶、礼儀正しく、夕方はきれいに掃除して、帳面を終えるまで。

撮影はバラバラに撮るので、その都度季節と時間帯をチェックします。朝早くから始まったり、夜中まで掛かったり、その都度スケジュール変更になるので、自分の会社に迷惑を掛けることも多くありました。まだまだお伝えしたいことはたくさんありますが、また、機会をいただけたらご報告したいと思います。

～お知らせ～

当組合の馬田勝之理事が、

2017年5月17日(水)午後11時00分～午後11時30分

NHK・Eテレ ふるカフェ系 ハルさんの休日「東京・木場 材木屋さんたちの人情カフェ」にご出演されます。是非、ご覧ください！

